

# 「孝」文化の現代的転換の背景の下 中国家庭養老支持政策の再構築

李 仁 子

## 【摘要】

「孝」は中国家庭養老（家庭内で老後生活を送ること）実現の文化的基礎と施行規則である。本論文は「孝」文化及びその家庭の世代関係の特徴と制度配置と「孝」文化が現代的転換の背景の下で中国朝鮮族居住地域にある家庭の老後秩序の中にある「変」と「不変」を捉え、「孝」と「養」のアンバランスと政府の対策を考察する。さらに家庭の世代関係の需要に基づき、家庭養老支持政策の再構築の考えを提案し、転換期にある中国地方政府が有効に人口高齢化に対応するための課題を提示する。

キーワード：「孝」文化の現代性 家庭の世代関係 朝鮮族の「孝」文化 家庭養老支持政策

## はじめに

中国伝統文化において、「孝」は家庭養老の存在を維持する思想と文化の土台である。数千年の歴史の変遷は中国伝統的の「孝」文化と家庭養老の間に安定かつ複雑な関係を形成した。人口高齢化の突出に伴い、小型化した家庭構造では、家庭内介護が重荷となりはじめた。中国社会の転換期で、家庭の世代関係の平等観念も徐々に浸透されている。関連する政策の導きや高齢者受入体系の不足は、「敬老」・「愛老」（高齢者を大切にすること）の政策環境の下、特に経済発展が比較的遅れている僻地民族地域において、一人っ子がより重い負担を強いられている。国内の学界では、「孝」文化と家庭養老に関連する問題について、主に歴史の変遷・意義・直面する問題及びこれから発展する方向などの面から研究がなされている。「孝」文化と家庭養老が現在相互に影響する中間或いは媒介の要素、及び政策保障面での研究は比較的少ないである。今、伝統的な「孝」文化は直面する経済社会環境の変化に伴い、人々の価値観も多様化する中、如何に「孝」文化伝統の合理的核心を提唱しつつ、現代性と融合し、家庭養老でさらに役割を発揮させるかは、政府と社会一般からもっとも注目されている問題の一つである。それは転換期の文化の伝承と新機軸の打ち出しと関連するすると同時に、人口高齢化制度の配置の有効性にも関連している。

## 一 中国伝統の「孝」文化と家庭養老

### 1. 家庭と中国伝統の「孝」文化

「家」は中国文化において重要な地位を有している。国内の多くの学者は「家」文化こそが中国伝統文化の核心と考えている<sup>1)</sup>。家は具体的な居住方式或は配置を指すことができ、特に血縁・婚姻・養子縁組などに基づいた集団の人間関係を指すこともできる。家庭の核心は居住関係、寄り添うと帰属感的要素を強調している。家庭は中国人にとっての意味は夫婦間に留まらず、更に親子及び世代関係にも及ぶ<sup>2)</sup>。中国社会学と人類学の基礎を築いた一人である費孝通は、中国伝統家庭の主要形式は、いくつかの同じ姓の血統から構成される「家族」の如きであるとしている。家庭の継続以外に、血統はまた複雑な政治・経済と宗教の機能を発揮しており、それは父と子・姑と嫁などの縦方向・等級の軸線により伝達されている。中国の家族主義は、構成員同士は互いに寄り添い・辛抱強い自制があり・謙譲・順応と老若序列の意識があることを強調している<sup>3)</sup>。

家庭観念は伝統的な世代関係の中で、「孝」を内容に、「百行孝為先」（孝は全ての行いの始まり）、「百善孝为首」（孝は全ての善事の始まり）を提唱している。「孝」文化は我が国伝統的な家庭養老方式の思想と文化の拠り所であり<sup>4)</sup>、家庭養老実現の施行規則である。儒家の經典で「孝」の観念に関する内容で、真っ先にあるのが年老いた親を養い、育ててもらった恩を返すことである。中国伝統の「孝」の基本精神と意義に関して、周桂鈿（2005）の解釈を見ると、「孝」の意義は恩返しにあり、親に育ててもらった恩を返すことである。先秦の儒家の「孝」の内容は：一つは養うこと、二つは敬うことである。儒家はここから我が身に置き換えて人のことをおもいやること、「老吾老以及人之老」（わが家の老人（親）を敬い、その気持ちで他の老人も敬う）、自分の親を尊敬し、それを広めて、他人の親と高齢者も尊敬するべしと発展させた。社会全体に広めると、即ち儒家の言う仁であり、孝は仁の元である。親のために名を博し、祖先の名をあげる、これは孝の現れであり；悪事を働き、親の顔に泥を塗り、祖先に恥をかかせることは不孝の現れである。孝の基本精神は親を幸せにすることである。この幸せは精神と物質の両方が含まれている。

農耕期、家庭内で文字がなかった時代、或は普及していない時代では、高齢者は一生懸命働き経験を積み、それを代々伝え、その経験は最も広く、地位は最も高くにいた。徐々に表れた「尊老」（高齢者を尊敬する）の習慣は、「孝」概念が生まれた最も根本的原因でもある。このように、家族と社会で求められている役割は徐々に規範性を有する一つの力となり、人々の人間関係及びその発展の継続を指導するようになった。家庭・血縁・隣人・社会など各種異なる人間関係の層を描き出している。同時に、何れの層も主流的・社会論理への忠誠を求めている。良き人間関係の秩序は一つの個体が外に向けて広き展開する交流圏であり、確定された主流的秩序に関わり、追い求めているのは「忠」と「信」である。人々に「親親」（親と仲良く）と「尽孝」（孝を

尽くす）を起点に、他人に気をかける、社会に気をかける気持ちと心持を育むことを提起している。これらから分かるように、「孝」は関係性至上の儒家論理役割に立脚し、一つの世代関係文化の伝承と伝達の原動力である。孔子が目するものは人の寄り添う関係であり独立した個性ではない。孔子が「仁」に巨大の価値を与えたことより、「仁」は人の個性より関連性に属することとなった。この関連性は主に、人が人としての品性に対する叙述・分析と評価及び生活の寄りとしている家庭・共同体の規制の効果（の判断）に用いられている<sup>5)</sup>。

## 2. 中国伝統家族の世代関係及びその特徴

家庭内部において、「孝」文化の本質は家庭の世代関係に対処する道德規範である。家庭内部において和みと互いに寄り添い・密な家族関係の構築を非常に重視かつ提唱しており、家庭は高齢者の世話の主な責任を負っている。子の親扶養義務を強調することは中国親子関係の特徴である。「父母在、不遠遊、遊必有方」（親が健在するうちに、遠出をしない、すれば必ず行き先を告げる）の古の教えは、「家」の重要性と子としての「孝」を強調している。費孝通（1983）は、西洋の家庭関係のモデルは「リレー形式」としている。このモデルでは上の世代に次ぎの世代を養育する責任はあるが、次の世代は上の世代を扶養する義務はない。世代から世代の一方的な責務と伝達の責任は、リレーの如くである。公式にすれば  $F1 \rightarrow F2 \rightarrow F3 \rightarrow F4$  となる。これと異なり、中国家庭の世代関係は「フィードバック形式」である。「フィードバック形式」（或は反哺形式）の中で、各世代は次の世代を養育すると同時に、上の世代の扶養義務を負わなければならない。公式で表すと  $F1 \leq F2 \leq F3 \leq F4$ （ $F$  は世代； $\leq$  養育； $\geq$  扶養）。家庭の中で、親と子の肉親の情は血縁関係に根を張り、長い共同生活の中で成長し、親は子に無償の愛を注ぎ込む。子の親への孝は、成長して物事を理解したのちの理性的な自覚である。肉親の情の一つとして、親の子を養育する責任と子の高齢になった親を扶養する義務が含まれている。

## 3. 伝統的「孝」文化伝承の制度的配置及び実践の強化

「孝」文化の発揮と提唱は、一定の経済的基礎・政治制度・社会規範を保障の条件としている<sup>6)</sup>。伝統的「孝」文化の中で、宗法家族は男性血縁関係を中心としており、「共居」（居住を共にする）・「共財」（財産を共にする）の家庭居住配置を通じて、徐々に形成されたみんなが遵守する施行規範：孝－悌－貞－順。そのうち「孝」は人々が人としての最も基本的な処世原則となり、人々の行いに制約をかけている。法律の懲罰及び社会輿論宣伝などの手段を用いて家庭養老の施行を保障している。「孝」文化の家庭養老に対する規範作用も、伝統社会の中で制定されている数々な経済・法律などの制度政策により保障されている。異なる時代において「孝」に付与される強制力の度合いも異なり、全体の傾向は「孝」が道德強制から法律強制まで引き上げられている。漢代社会は初めて「孝」を完全な形で法体制に置き<sup>7)</sup>、「孝」に対して奨励し、「不孝」

に対して懲罰することとなりました。歴代の王朝は皆一定の制度を通して高齢者に物質的な供給と精神的な慰めを与えていた。具体的には賜物、租税の免除・賜爵位・官職と下問慰安などが含まれている<sup>8)</sup>。中国唐代では特定の高齢者にその生活の世話をする若者を派遣する給仕制度がありました。社会政策の観点から見ると、それは唐政府が家庭養老に政策支持を与える制度設計であり、中国古代社会政策実践の模範であった<sup>9)</sup>。また、家庭福祉への政府の積極的干渉であり、中国古代の発展型家庭政策である。「孝」文化の重要な地位及びその歴史的役割も様々な形を通して解釈、普及されていた。

このほか、現実生活の中で父世代は自ずと義務を強化して行く傾向にある。例えば、馬尽孝(2003)は、父子関係は二重関係としている。まず初めに、それは生育から生まれた血縁関係であり、肉親の情が含まれており、強固にして不変である。それは自然属性の原生性の関係であり。父子関係の本質属性である。次に、社会規範に規定された社会関係。意識形態要素を含み、増減変化が可能である。親子関係家庭の構成員の間では互いに寄り添い、辛抱強く、謙譲と老若序列の意識があることを求められ、尊親・養親・奉親を強調している。これは家庭内部の成人した子と高齢になった親との世代関係の核心でもある。しかし、現実生活の中で父世代は自身の義務を自ずと強化する傾向がある。子の健康的な成長とより良い発展は父世代が抱える心配の種であり、父世代は自ずと子世代への義務を強化し、それに対するつぎ込みを増やしていった。それは子世代の幸せのために大きな犠牲を払う精神の現れである。これを鑑み、子世代は孝を行い、高齢となった親の養老生活に物質と精神上的の保障を提供している。様々な原因により、子世代の孝が足りず、それは即ち親の老後生活の質に影響を与えることとなる。そのため、このような家庭世代関係の中で高齢者にとって、成人した子との世代関係は自身の老後生活の質を量る重要な指標である<sup>10)</sup>。

「孝」を核心とする家庭養老の中で、最終的に高齢となった世代はその子孫から有益な支えをもらい、若い世代はそれにより年長者たちが望む新しくかつ持久な生命過程へ転換と成長し、継続し続けていくのである。それは中国人の価値観・考え方・習慣・民族の意識(民徳・民風・民俗)の中で深い跡を残している。特に高齢者扶養の面では、家庭の役割はなお認められている。家庭の構成員、特に子の役割は依然と強調され、伝統的な子の孝を尽くすことと結合して一体をなしている。それは一つの倫理規範として、今なお社会輿論の支持を得ている。そのうえ憲法という国家の法の元にかかれている。「常回家看看」(時々実家へ帰ろう)も「中国高齢者權益保障法」にかかれている。親は子が自分から生まれたことによりそれを養育する；子は親から養育してもらったために親に報いして孝養を尽くす。高齢になった親を扶養し、養育してもらった恩を報い、これは中華民族の伝統的な美徳として大いに推奨された。今現在、また法律・政策などを通して人々が孝を行うことへ導いている。ネットを活用して、大々的に宣伝と教育を行った。例えば、中国高齢事業發展基金會の高文化委員會が創設した中華孝文化宣伝ネット・湖北エンジニアリング学院の中華孝文化研究センターが主催の中華孝文化ネット及び民間団体が開いた各種の孝

文化ネットがある。この他、各種の「孝」文化を内容とする様々な学校教育活動と図書資料がある。

## 二 「孝」文化の現代的転換と家庭世代関係の変化

### 1. 現代的「孝」文化の普遍性と特殊性

もし現代性に全ての民族国家を超越しうる普遍性があれば、その普遍性は各国の文化や歴史経験と結合する過程の中で、必然と民族文化の印が刻まれる。一つの民族の文化はその民族が長い社会生産過程の中で形成と発展した物質的と精神的な富であり、一定の民族の価値観と道德基準が含まれている。文化の民族性は一つの民族が他民族との間にある文化属性と形式的な違いを示すものである。経済社会の発展に伴い、特にグローバル化・現代化の背景の下、伝統的な「孝」文化も挑戦を受けている。それは人々に文化現代化と文化選択などの一連な問題への思考を促している。伝統的な「孝」の中から、如何にその粹を取り、カスを取り除き、そして高齢者に尊厳ある老後を送らせるかは中国の人口高齢化の下、政府・高齢者自身・家庭構成員共に向き合う重要問題である。

20世紀以来西洋以外の国の経済的勃興により現代性は「多元」と「一元」の争いに直面している。金香花（2013）の論述によると、儒家伝統の影響の下、工業化する東アジアの現代性は西洋と異なる道筋を現わしている。即ち、本来ある西洋の現代性を中国化しそれを実現することを目標とし追い求める時に、儒家価値がその中にあるために、西洋と異なる形式が現われている。思うに、東アジアの現代性の社会的特徴は、各種関係の中で自身の義務感・自身への制約により統一した意見と協力を得ることを強調し、教育と礼儀の重要視し、コミュニティと政府の導きを信頼するなどが含まれている。これらから分かるように、多様な現代性の提唱は異なる文化への同意の現代性構成である。その論争の本質は、現代性の普遍的内面と民族文化の特殊性の間の弁証関係問題である。仮に、現代普遍性と民族文化の統合の過程内で、現代性の普遍的内面をなおざり或いは否定すれば、もう一つの盲区（見落とす点）を作り出すかもしれない。「孝」は一つの血縁性によるかために代替性がなく、尊老愛老・愛親敬親などの面を有し、時間と地域の制限を超越する普遍性がある<sup>11)</sup>。そのため、開放性を堅持し、理性的同意と合理化を追求する方法を一つにし、現代化の本土化実現は文化選択と文化自覚の過程である。

### 2. 現代家庭の世代関係の中にある「変」と「不変」

今現在「孝」文化が家庭養老において役割を果たす経済社会環境は既に大きく異なっている。成人した子と親の間の世代関係は多様な傾向にある。我が国が工業化と現代化を実現する過程内で、人間関係は平等という概念が徐々に浸透し、年齢・性別・社会地位を問わず、全てにおいて平等を求める考え方も少なくない。家でサービスを受けられるのが一番望ましい、最後の最後

に自立できない時、高齢者はようやく老人ホーム入りを希望するが、それでもなお子との親密な繋がりを求め、遠距離を避けたい。高齢になった親が家庭内における絶対的権威の地位も変化している。例えば、家の中での経済・経験の絶対的権威の動揺、それは世代関係平等へ転換している。現代人の知識と経験の獲得は高齢者の教えに頼る割合は低いのである。特に情報化・ネット化の時代では、若者が情報獲得するルートは多く、かつその能力も強いである。複数の子で高齢者扶養をする家庭でも同様に、以前は長男の役割を強調していましたが、今は子同士の平等負担が強調されている。要するに、成人した子は一般的に高齢者を敬うという伝統的な「孝」文化の原則を遵守しつつ、親孝行も否定しない。しかし、若者の生活は異なる環境の中で徐々に新たな視点と観点を形成している。ある程度において既定の養老社会の秩序を否定する傾向があり、独立と個性の発展を保ちたいである。

今現在、「孝」文化の基本的理念と意識の中で、伝統と異なる傾向は主に次の通りである：親子関係において人格の平等を重視；高齢者は性別の隔たりなく同等な権利と義務を享受することができ；自立できるならばできる限り子と同居しない；一部の高齢者扶養機能は専門或いは職業化したサービス（機関）に委託できる；徐々に国家が家庭養老及び居住養老（自宅で老後を過ごす）に対する指示を強調；孝文化の法的保証、などである。伝統の「孝」の変化はその必然性と合理性の面を有している。しかしこの点への同意はまた高齢者の観点と相違或いは対立するという面がある。伝統的な「孝」文化の下、親が子、特に長男の扶養に対する依存度は高く、それには実質的と観念上の依存が含まれている。子世代の数の減少に伴い、家庭は小型し、高齢者の寿命は延び、子世代の扶養負担はより重くなっている。計画出産政策の実施、人口移動が加速するなどの複数な要素の影響の下、我が国の世帯数の増加スピードは明らかに人口の増加より早く、世帯規模の小型化傾向は止まらず、表1が示しているようになっている。全国第六回人口調査によると、2010年中国の世帯規模は2人（2人家族）と3人（3人家族）が大半を占めている。都市と農村の傾向は同じく、かつて農村でよく目にできた大家族は急速に消えている。次世代の養育コスト、特に教育費などが増加する中で親世代にまわせる資源はさらに少なくなっている。家庭養老支持の政策も完全ではなく、扶養しない・扶養放棄、時に虐待などの悪い現象も発

表1 中国家庭の世帯規模変動

年	世帯数 (万)	世帯規模 (人)	1人世帯 (%)	2人世帯 (%)	3人世帯 (%)	4人世帯 (%)	5人世帯 (%)	6人及以上 人世帯(%)
1982	22537.9	4.41	7.97	10.08	16.05	19.54	18.35	28.0
1990	28830.0	3.96	6.27	11.05	23.73	25.82	17.75	15.38
2000	34049.1	3.44	8.30	17.04	29.95	22.97	13.62	8.11
2010	40151.7	3.09	13.66	24.37	26.86	17.56	10.03	6.63

出処：1982年－2010年中国人口調査統計資料を元に抽出し整理：彭希哲，胡湛，当代中国家庭の変遷と家庭政策の再構築 [J] 中国社会科学，2015年第12期，p 118.

生している<sup>12)</sup>。

### 3. 現代家庭の世代関係が居住方式における相違

2010年第六回人口調査の結果によると、60才以上の高齢者は主に家庭構成員の扶養に頼っている。農村部の養老金（年金）がない80才以上の高齢者の家庭扶養依存率は81.84%<sup>13)</sup>に上る。その中で「孝」文化は大きな役割を果たしている。諺にある「養兒防老、積穀防飢」（子を養育して高齢に備え、穀物を貯めて飢えに備え）はこの特徴を現わしている。ここから見て分かるように、家庭養老を促進し、尊老愛老の伝統を発揚する、「孝」文化は今現在でも重要な意味があることに疑いの余地はない。高齢者は子がそばに居ることを好み、依然と子との同居を希望する高齢者はいる。しかし、居住方式では、伝統的な「同住奉養型」（2世代同居して高齢者を扶養する）世代関係は徐々に転換している。「奉養有間型」は重要な位置を占めている。いわゆる奉養有間型は、主に親と同居せず、コンタクトの頻度が高く、世代関係間の衝突は少なく、しかし親密性は普通、上への経済支持提供が比較的に多く、下への支持提供が比較的に少ないタイプを指している。2012年中国社会総合調査（Chinese General Social Survey）が行った17の省1126人<sup>14)</sup>への訪問資料分析の結果から見ると、高齢者親の視点から子と高齢者親の世代関係を分析すると、その関係は大きく次の三タイプに分かれている：即ち親密型・奉養有間型・疎遠型であり、それぞれが占める割合は31.66%・57.39%・10.95%である。成人した子と親の世代関係で最も多いのが「奉養有間型」である。結果から見ると、子は親と同居しないものの、しかし依然と高齢の親を支えている。

高齢者本当は馴染みがある環境或いは子の近くに住みたい、それにより心的安全感が保障され、有事の際も素早く対応できる。しかし現実の選択は多様性を示している。学者の楊芳（2017）の結果によると、中国都市部の青年グループ・中年グループ・高齢グループの養老観念を比較したところ、青年グループと中年グループはその他の養老方式を試したい傾向にある。機構養老（老人ホームなど）への同意は、交友関係を広め、細かい世話を受けられる他、中・高齢グループは子の負担軽減のため、青年グループは豊かな老後生活が送れるためである。同意しない原因について、「未富先老」（豊かになる前に年をとった）の高齢者グループ、真っ先に考えるのは経済的負担であり、なぜならば今現在の高齢者の可処分所得と比べ、機構養老の費用は高すぎるのである。中・青年グループが機構養老に同意しない一番の原因はプライバシーが保護されないことへの心配である。

第六回人口調査の結果では、2010年中国で60才以上の高齢者が居る家庭は1.23億世帯、全世帯の30.6%を占めている；65才以上の高齢者が居る家庭は8803.6万世帯、全世帯の21.9%を占めている。うち、約2/3の世帯に高齢者が居る。高齢者のみの世帯は3000万近くあり、全世帯総数の8.1%を占めている。家庭内部にある世代関係からの支持はなお中国高齢者保障と世話の主な担い手であり、大半の高齢者はその子或いは孫と共に生活している。

表2 我が国の高齢者家庭の居住方式

(%)

	1982 年	1990 年	2000 年		2010 年	
	65 歳及以上	65 歳及以上	65 歳及以上	80 歳及以上	65 歳及以上	80 歳及以上
独居老人	12.2	9.6	9.6	12.4	12.5	17.5
高齢者夫婦（一代中心世帯）	13.7	17.1	23.9	11.2	29.2	16.8
高齢者夫婦と未婚子供（標準中心世帯）	6.9	6.6	5.0	1.7	3.6	1.7
一人高齢者と未婚子供（中心欠如世帯）	4.6	3.8	3.1	4.6	2.3	3.1
その他二代中心世帯（拡大中心世帯等）	3.4	2.7	2.3	2.1	2.8	2.0
高齢者と既婚子供（二代直系世帯）	3.5	3.7	5.2	12.3	6.9	13.6
高齢者と孫（隔世世帯）	3.8	3.7	5.2	6.2	5.6	5.0
高齢者と子供及孫（三代直系世帯）	47.2	47.4	41.4	38.0	32.8	30.0
その他の拡張家庭世帯	3.8	4.8	3.6	10.9	3.2	8.4

出処：1982 年－2010 年中国人口調査統計資料を元に抽出し整理：彭希哲，胡湛，当代中国家庭の変遷と家庭政策の再構築 [J] 中国社会科学，2015 年第 12 期，p 120.

ここで言う「高齢者夫婦」は夫婦共に高齢者であることだけでなく、片方が高齢者のケースも含まれている。子との同居はなお高齢者居住の最も重要なタイプであるものの、減少傾向が続いている。同時に、高齢者自立して生活する世帯の割合が上昇し続けている。全体的に、高齢者と子が別居や多世帯同居の方式は我が国の高齢者居住方式のメインとなっている。2010 年高齢者居住方式で 10% 以上を占めるものは独居・高齢者夫婦・直系二世帯・直系三世帯がある、前両者は 34.3% を占め、後両者は 33.6% を占め、割合は横並びである。

### 三 中国朝鮮族居住地域の「孝」と「養」の伝統とそのアンバランス

#### 1. 中国朝鮮族の「孝」と「養」の伝統的秩序

中国朝鮮族はエリアを跨ぐ民族であり、中国にある 55 の少数民族の一つである。朝鮮族は昔から「礼儀民族」の名があり、「尊老愛幼，礼貌待人」（高齢者を尊敬して幼い子を愛し，礼儀をもって人と接する）は朝鮮族が代々受け継ぐ美德であり，「贍養父母」（親の扶養）は家庭関係の中で最も基本的な道德行為と伝統的美徳として受け継がれてきた。「孝」はいつも家庭関係を処理し，家庭の円満と安定を促す道德基礎や重要要素と見なされてきた。子は親に孝行をして扶養する義務があり，親孝行しない行為は人々から軽蔑され，指をさされ罵られる。礼儀と習慣でも，高齢者への尊重を現わしており，孝行に深い道理を必要なく，ただ服従のみと考えられている。子供から見た家長は非常に威厳ある存在である。子はこの基本的道德基準をもって自身に制約をかけている。「身体髮膚，受之父母，不敢毀傷」（身体はすべて父母から恵まれたものであるから，傷つけないようにしなければならない）・「对父母的侍奉」（親に対する扶養）・「恭敬和顺从」



（敬うにして従順）・「立身揚名，以顯父母」（身を立てて正しい道を行い，名声を後世に遺し，父母を顕彰すること）・「奉祀」（祭る）など，朝鮮族の日常生活の各方面に深く影響を与えている。一般的に子への教育において強調されるのは家族の男性の勇敢果敢・犠牲を恐れず・忠誠を尽くして国に報いる精神と女性の勤労聡明・上を敬う下を愛し・気丈な品質である。

朝鮮族の「孝」と「養」の伝統的秩序は，家庭養老をいつも「孝」文化の一つとし，家庭は婚姻関係・血縁関係を絆に，高齢者のために生活の世話・肉親の情交流と精神的な慰めを提供している。伝統的な観念に従うと，親が高齢となり，子は親を敬うにして扶養し，一般的に強調されるのは長男が親を扶養するという重要な責任である。親への孝行と従順の強調において，しばしば「神的報応」（神からの報い，天罰）で色染めをする，即ち親孝行をすれば良い報いがあり，さもなければ天罰が下される。伝統的な朝鮮民族は直系家族構造に属し，長男継承制をとり，祖先より子孫までの縦の繁栄を重視するのが特徴である。家長と家族間の従属関係は上から下，年齢の順次を守るものである。長男は家族の興廃に重大な責任があり，「孝敬公婆，賢妻良母」（夫の親を敬うにして孝行をし，聡明な妻であり良き母である）の嫁は常に称揚される。「孝」の面で，朝鮮族の民話・神話伝説の中で奉げることを惜しまない女性（女傑）は称揚される。それは広い社会性と民衆性を有している。「孝」文化の宣伝と伝承の面で，依然に高齢者を尊敬して幼い子を愛することなどが強調されている。「高齢事業宣伝月」・「8.15 高齢者祭」記念日などを利用して，各種の敬老イベントを企画し，「模範家庭」・「孝子儿媳」（親孝行をした子と嫁）など典型例を表彰し，点から面へ，大々的に伝統的美徳と宣伝し，良き社会雰囲気を造り出している。

## 2. 人口流出の背景の下にある家庭世代関係の中の肉親の情とやむえなさ

延辺朝鮮族自治州（延辺州）は吉林省東部の中国・ロシア・北朝鮮三国の国境が接する場所に位置し，日本海に面している。全州の土地面積は 43329 平方キロ，吉林省総面積の約 1/4 を占めている。ここは全国最大の朝鮮族居住地域である。2016 年末まで，延辺朝鮮族自治州の総人口は 212 万人，うち 60 才以上の高齢者の数は 44.09 万人，州総人口の 20.8% を占めており，全国平均水準を 4.1% 上回り，さらに年平均 4.5% 前後のスピードで増えている。改革開放以来，労働力は基本的に大都市・開放した沿海都市に流出した。特殊な地理的位置と経済・人文の影響により，人口の国外流出も非常に頻繁に起きている。特に 1992 年中韓が外交関係を結んだ以来，地域の対外的開放度はさらに進み，労働力は親戚訪ね・婚姻・労務などの形で国を跨ぎ韓国・日本などの国に流出しました。改革開放して 40 年，延辺地域は頻繁に人口流出が起きている。長期的な国外への人口流出は農村集中地の空巢（空き家）化，留守人口の増加という一連な問題を引き起こしている。これらの現象は伝統的な農耕社会から産業社会への転換時に起きる普遍的な問題と言えよう。しかし長期的な人口流出と直接な関係があり，それにより加速させられている。

異なる文化環境の下で生活すると，家庭構成員の観念及び孝行の方式に大きな差が生まれ，伝

統的家庭の安定性に影響を及ぼしている。「孝」文化は家庭養老における役割も大きく低下している。子について大都市で暫く生活した親もいるが、言葉が通じない・生活習慣の違い・生活環境に慣れないなどなどの理由により、再び故郷に戻っている。大量な労働力流出、子は遠距離で生活において高齢者にさらなる助けができず、両者の気持ちのコミュニケーションも薄れていった。生活において高齢者に今以上の気遣いや世話を与えることはさらに困難となった。特に、女性の長期出稼ぎは扶養・世話をする人口を減少させ、留守人員の高齢者扶養の負担が相対的に増している。2018年某民営養老院（老人ホーム）が行った調査によると、129名の高齢者のうち、61名の養老費は子が負担している。一部の高齢者は物質的需要が満たされているものの、精神的な虚しさと孤独が依然と老後生活に影響を与えている。子に孝行する気持ちがあっても、生存と生活のプレッシャー或いはもっと高い生活水準を追い求めている中、頻繁に顔出しができなく、高齢者を構う余裕がない。若者の国・地域を跨ぐ流動で、子と親の居住地が遠距離になることも一般的な現象である。子の生活プレッシャーが高く、遠方から頻繁に休みをとり実家に戻ることは困難である。親に対する「孝」は依然と社会の共同的価値であるとは言え、子が居る社会環境の変化により、その孝行の形、度合いなどの面も変化している。子の角度から見ると、「孝心」（孝行する気持ち）あるものの、仕事と生活のダブルプレッシャーの前に、なかなかうまく扶養義務を果たせない。要介護或いは要補助の高齢者の世話をすることはさらに困難である。

### 3. 延辺地域家庭養老をめぐる世代関係の相違

朝鮮族は家庭養老を一つの「孝」文化と見なしてきました。地域の生産力発展水準が相対的に遅れており、「未富先老」、一つの家庭で高齢者扶養する負担が重くなり、子も仕事と家庭の板挟みに落ちている。伝統的大家族の減少と核家族の増加は、以前あった三世帯さらに四世帯が同居する家庭構造と一家をあげて行動するという家庭機能は大きく影響を受けている。特に「4-2-1」（高齢者4名・親2名・孫1名）家庭の中で、構成員の力の多くは育児に集中され、教育費への投入も増加している。これら皆家族構成員間の関係を変えている。加えて、一人っ子時代に家庭規模の縮小と構成の多様化、一つの家庭の高齢者扶養の役割は以前に比べて弱くなり、養老負担も重くなっている。子が長期的な出稼ぎに行き、高齢者の世話をする時間はなく、要介護或いは要補助の高齢者の世話をすることはさらに困難である。家庭の力だけで十分な養老サービスを提供することが難しくなっている。親が自立できない時に、医療型養老機構を考える傾向も徐々に増えている。特に生活の世話・病気の看護などの面で、社会養老がますます必要とされている。特に条件が優れている公立の政府系養老機構は一番の選択とされているが、供給が足りないことが多く、公立養老院の入院待機時間が1年となることはごく普通である。現在、公立養老機構のベッド数は足りなく、空き待ち状態が続いている；民間の養老機構はサービスの質が心配か、費用が高いかの何れである。家政婦を雇いたいが、費用が高すぎる；タイムサービスを購入したいが、信頼かつ満足できるサービスを提供できる業者或いは個人を見つけることが難しい。彼らは

関連する家庭養老の支持政策及び関係するサービスの供給に期待を寄せている。

高齢者の角度から見ると、養老観念及び居る環境は多様化している。伝統的な「養兒防老」の意識は徐々に薄れている。そして徐々に子の現代的な生活スタイルと選択を受け入れ始めている。高齢者の中で自立できる時は子との同居を望まず、その負担になりたくないと思う者もある。自立できない時、子と同居するか、養老機構を選択するかの考え方も徐々に増えている。しかし、安全面への心配で子と同居を望む高齢者もいる。養老施設を拒む高齢者もいる。その主な原因は伝統的な養老観念・経済条件・養老サービスへの不満などがある。大半の高齢者は養老機関に行きたくなく、在宅養老を望んでいる。もし周りに人がいなく、どうしようもない場合によりやく養老機関入りを考えるという傾向にある。話によると、某76才の高齢者、2人の子は皆韓国で20年近くビジネスをしている。子は韓国行きを勧めているが、本人は子の負担を増やしたくなく、延滞に居る方が居心地よく、そのために養老機関で生活している。視力が落ち、携帯の操作にも不慣れで、元旦或いは春節の時でしか子に会えない。その都度十分過ぎる生活費、衣服などをもらっている。しかし一番はやはり子が恋しい、しかし韓国までの距離が遠く、次の春節或いは誕生日に子が来ることを待つしかない。

子が近くにおらず、家庭養老することができない。子がいても、家庭養老に気まずい状況は存在する。とある訪問の中で、共働きの夫婦に中学三年生の子供が一人、一年近く寝たきりの義理の母の世話を続けた嫁は限界を感じ、仕事と家事の配分を巡り、さらに子供の学業のことで夫と頻繁に矛盾をおこし喧嘩をしていた。子は養老機関を選択したいが、親はそれを拒んだ。家政婦は経済的な負担となる。タイムサービスは質・信用などの面で納得できるものがない。確かに、十分な家庭養老サービスの供給ルートがなく、関連する保障措置がない状況で、家庭構成員の「孝」だけを強調すれば、その代価は家庭構成員の犠牲しかない。加えて、根強い伝統文化観念と現代の「孝」文化宣伝の雰囲気の中、家庭構成員のプレッシャーも非常に重く、構成員同士及び夫婦関係にも影響が及ぶ。このような状況の下、もし依然と伝統的な孝行の方式を強調し続けてくならば、それは説得力を欠くものである。「孝」は平等の人格関係で、親と子の間で互いに理解と支持し、子の「孝」は自発性と自覚性を基とするものであることでようやく説得力があり、このような「孝」は心からの誠な「孝」である。イギリスの学者ホップズ（1588-1679）は、子の出生は子の同意を得ておらず、そのため親は養育の責任はあるが、それを理由に孝行を求めることができない、子が親の苦勞に対し理解と同情が生まれて初めて孝は生まれる<sup>15)</sup>。

#### 四 高齢者の生活状況と政府の政策指向

##### （一）延滞地域の高齢者の生活状況及び主な苦境

1. 高齢者の経済的收入は単一で、貧困比率が比較的に高い。高齢者は体の状況などの原因から、経済的收入は主に土地の譲渡或いは賃貸（1畝は約200元/年）・救助補助<sup>16)</sup>・養老保険・子

の援助である。一般的に高齢者の収入は6000-7000円で幅があり、基本は10000元以下である。3000元／年は食事問題を解決でき、最低限の生活が送れる。しかし、隣人同士の冠婚葬祭・医療費などの負担が重い。低保戸・五保戸などは主に政府の最低生活保障金に頼りである。その他、地域経済も豊ではなく、貧困高齢者の割合は比較的高く、延辺第六回人口調査期間内で全州312298名の常住高齢者に対して調査を行った結果、労働収入ないや離職退職養老金がない高齢者は44.3%を占めていた。延辺農村ではこの割合は調査対象の58%を占めることもある。

2. 慢性疾患に悩む高齢者。体が弱り病気になりやすく、長年高血圧・関節病などの慢性疾患に悩まされていることは高齢者貧困の一番の原因である。延辺地域の高齢者の慢性疾患率は明らかに国内のその他の地域より高い。研究調査によると<sup>17)</sup>、延辺地域農村の朝鮮族の留守高齢者の慢性疾患率は71.5%で、漢民族高齢者の61.9%より高く、湖南・四川などの地域より高く、2008年我が国の第四回衛生サービス調査結果（農村部高齢者の慢性疾患率は38.9%）よりも明らかに高いのである。我が国は新型農村合作医療制度<sup>18)</sup>を推進しており、全体の清算範囲が狭く、割合も高くない。農村医療衛生資源は完備されておらず、診療が難しい、診療が高いという問題に直面している。郷鎮に衛生所はあるが、人員が乏しく、腕もよくない、中に衛生所がない村落もある。高齢者はテレビCMにある薬・マルチ商法などの科学的根拠がない薬を信じやすく、時に騙され、金銭を無駄にしている。

3. 孤独・空巣高齢者の比率が比較的に高い。延辺第六回人口調査期間で、高齢者夫婦が居る94261世帯に対する調査によると、一人暮らしの高齢者世帯は53.0%を占めている。孤独高齢者の数も上昇しており、1名の高齢者が居る234234世帯に対する調査によると、一人暮らしの高齢者世帯は59%を占めている。養老モデルと育児モデルは密接に関連している。中国人は一般的に子を養育した後、孫の世話をする。子が外国へ出稼ぎに行くことにより、高齢者が「留守児童」を養育する「隔世教育」の過程内で直面する新たなプレッシャーもその生活を乱している。州の高齢者委員会の関連統計によると、2011年延辺州の「留守高齢者」は129241人まで達しており、全州総人口の38.3%を占めている。多くの村落の「空巣高齢者」の割合は既に50%を超えている。和龍市龍城鎮興西村の総人口は2132人で、60才以上の高齢者は68.2%を占めており、うち子と同居している高齢者はわずか10.2%である。

## （二）家庭養老から社会養老へという政府の指向

延辺地域の家庭養老機能は弱まりつつあり、地域人口の高齢化傾向も比較的に厳しい状況の中、人口の高齢化に積極的に対応するため、政府政策の導きはだまかに二つの領域に分かれている。一つは高齢者向けの優遇サービスと保障体系。二つは積極的に社会養老モデルを推進する。具体的に言うと、政府は「政府主導・政策扶助・社会参加・市場促進」の原則に従い、高齢者に関連する各種保障体系と優遇サービスの整備に尽力する。地域の経済発展水準は相対的に遅れており、政府の養老サービス供給能力にも限りがある。しかし、地方政府は各種補助と便利なサービス

スの提供に尽力している。2013年全国高齢弁の文書「さらに高齢者優遇任務を強化することに関する意見」、『延边朝鮮族自治州高齢者權益保障条例』・高齢者優遇の関連文書などの要求に従い、2015年に県以上の地方政府で全面的に高齢者優遇政策の創設を実現し、交通優遇・高齢者補助金などを打ち出していた。2014年まで<sup>19)</sup>、基本医療保険の都市・農村住民の参加率は90%以上になった。新農合と城鎮住民の医保に対する政府補助は320元まで引き上げられた。都市の最低生活保障の一人当たりの月保障基準は401元になり、農村の最低生活保障の一人当たりの年保障基準は2670元に達した。予定より2780世帯増しで農村の危険住宅14149世帯の補強を完了した。全体から見ると、養老政策体系はまだまだ不十分で、各種サービスの供給水準の向上を期待している。

次に、社会養老の発展を高齢化対策の重要任務として遂行する。社会養老サービス供給において、政府が中心となる。既に「在宅養老を基礎に、コミュニティ養老を依りに、機構養老を支えに」の社会養老サービス枠組の基本が構築されている。社会養老サービスの対象と方式は伝統的弱勢グループへの救済から徐々に高齢者全体に向けた多様なサービスに変わる。公立と民間の力を合わせて、ベッド数を増やす。公立福利機構の入院対象は主に「三無」と「五保戸」、同時に高齢・一人暮らし・要介護の貧困高齢者を優先とし、重点は底辺にいる弱勢グループに置き、徐々にその他の高齢者を受け入れる。公立養老機構の保障機能と模範作用を発揮し、全国の民族地域でトップを狙う。しかしベッド数不足、専門の看護人員が足りていないことは依然に主な問題である。同時に、社会で養老機構の創設を導き、支持し、各種優遇政策を制定する。税収・水道光熱費・医療衛生・教育・労働保障・土地計画・融資・寄贈などの面で減免と優遇政策を受けられるようにする。しかし大半の民間養老機構はサービスと設備の不完全・資金調達の一・看護人員の専門性不足などの原因により、住居率はよろしくない。この他、城郷住民在宅養老サービスセンター・デーサービスなどの基礎施設の建設を強化する。サービス内容では、物質と精神の両方において、単一な生活看護から徐々にリハビリ・文化的娯楽・精神的慰めなど多様化に向けて発展する。

### （三）家庭養老と社会養老選択の間の苦境

近年、政府が大々的に社会養老モデルを推進しているもの、様々な原因により、社会養老はまた高齢者の一般的選択肢になっていない。養老機構の養護サービスの質の問題・看護人員の専門性不足・資金調達の一・訴訟問題などが主な原因である。高齢者の伝統的観念・費用負担・不自由などの原因により、機構養老は大半の高齢者の一番の選択肢ではない。子が身近にいない、行動が不便な場合では、高齢者は養老機構を選択する。長期介護保険がまた整備されていない状況下で、要補助或いは要介護の高齢者の世話は、その配偶者或いは子のプレッシャーは大きい。養老機構に入ること自体が子から見捨てられ、社会的に面目丸つぶれのことと考える高齢者もある。伝統的な家庭養老方式は中国においてなお発展する余地がある。高齢者自身の養老意識も変

化している。高齢者にとって、子が身近にいない、家庭の温もりを欠けることは、その幸福指数にも影響を与える。

高齢者が養老に託している願いは複雑かつ多様である。現在子たちは身近にいない、伝統的な「養児防老」意識も徐々に薄れている。様々な要素を考慮して、高齢者は自立できる時は、子との同居を極力避け、自立できない時、子との同居、或いは養老院を考える。しかし、費用負担・伝統的観念・不自由などの要素を考えると、普通は養老機構入りを嫌い、中には頑固な方もいる。2014年に中国と朝鮮の国境地域で高齢者生活状況の調査した時に、図們月清鎮岐新村にいる85才の高齢者の場合、子は韓国で仕事しており、かつて6回敬老院に入りましたが、「養老院は監獄だ」、費用が高いなどを理由に、村へ帰ることを強く求め、自分の古いボロ屋の一人に孤独な生活を送っている。

これも現在民間養老施設の入居率がよくない最大の原因である。施設養老に対する心配事が絶えない中で、政府は民間養老施設に対する政策の導きと管理を真剣に考えなければならない。自立できる高齢者に対し、積極的に様々な好まれる在宅養老サービスの供給方法を探ることが最も迫られる重要事項である。養老の面で、もし家庭の負担が重すぎると、政府の公信力に影響する。なぜならば、中国政府主導の社会保障と社会福祉プロジェクトは日々城郷住民の生活に欠かせない存在となっている、中国中央と地方政府の関係から見ると、もし中央政府の政策の導き及び激励が不明確ならば、地方政府の対応と執行の度合いも弱くなる。もし地方政府の役割が不十分ならば、養老問題は最終的家庭構成員の責任と義務となり、政府の責任に対し疑問の目が向けられる。

## 五 孝文化の現代的転換背景下の家庭養老支持政策の再構築

今現在、延辺地域で完全に施設養老に頼ることは、現実状況に合わない。家庭養老だけを頼りに養老が直面する問題の解決を図ることも現実的ではない。伝統的な家庭養老は弱くなり、人々がその他の養老方式の受け入れるに過程を必要とする状況下で、社会養老を推進すると同時に、家庭養老の支持政策にも目を向けなければならない。2013年に施行始めた国家「改定高齢者權益保護法」から見ると、国は政府の社会保障サービスを強調していると同時に、家庭の地位と役割も強調しており、両項同時進行方式を推進している。高齢者の他、それを扶養する子並びにその需要にも目を向けなければならない。伝統文化伝承の過程で、現代的転換の需要にも注目しなければならない。今中国の伝統的「孝」文化とグローバル化・現代化の融合、それにより新たな魅力は発揮させることで、その文化的生命力を強化できる。家庭養老支持政策の再構築について、主に以下のポイントを考えている。

(1) 伝統的「孝」文化に現代化の要素を注入し、世代関係間の「共生」と調和を実現させる。

新型「孝」文化は世代間の平等・尊重、世代関係間助け合いなどを提唱することが特徴であ

る。伝統的な「孝」文化に頼るだけでは、家庭養老の現実的な困難を解決できない。高齢者自身・或いは子・或いは政府、何れだけで養老負担を背負うことは困難である。伝統的な「孝」文化の基礎はまたあるとはいえ、子の様々な生活からのプレッシャー、特に一人っ子は経済・精神と個人発展などの面からのプレッシャーは比較的重いである。これには、政府が高齢者との「共生」と調和の実現から出発し、新たに異なる層を支持する政策の創設を期待する。

(2) 高齢者の自立意識を強化し、積極的な健康養老に導く

高齢者の主観能動性を十分に発揮し、積極的に社会への歩みを奨励する。コミュニティで各民族の「孝」文化の特徴に依り、現代「孝」文化の宣伝及び各種のイベントを開催する。徐々に伝統的な養老観念を変化させ、受動的・消極的養老から主動的・積極養老へ転換する。同時に、人々に高齢者扶養は男性だけの権利と義務ではなく、嫁の権利問題にも関連することを十分に意識させる。特に一人っ子時代、女性も同様に自分の親を扶養する権利があり、男女の親扶養権利は平等である。数千年の伝統的「孝」文化の積み重ねは、法律と制度・社会輿論などを通して初めて養老問題における性別平等問題の解決が図れる。

(3) 世代関係間の需要を導きに、新たな家庭支持政策を創設する。

中国が全面的に一人っ子政策を撤廃したことは、長期的に見れば人口高齢化による社会問題の緩和の助けになっている。しかしその積極的效果が現れるのは少なくとも十、二十年後であろう。今の家庭世代関係変化の状況下で、特に一人っ子の負担が重すぎる。そのため、政府が基本養老公共サービス提供の中の責任と投入を強調することは、社会と高齢政策研究の更なる発展の必然的考えである。現在、なお伝統的「孝」文化の積み重ねによる影響が存在しており、さらに重要なのは高齢者が「未富先老」で、経済的に社会養老を受け入れられる条件が整えていなく、サービスにも不満がある状況下で、需要を導きに、家庭養老と社会養老の間のバランスを取ることが大事である。

(4) 性別平等の視点から、積極的に高齢者看護サービスを提供する。

高齢者及び高齢者扶養する家庭構成員に対し、居住方式・孝行する方法などの内容を中心に、輿論宣伝教育をする必要がある。同時に、彼らの異なる需要に対し、政府はサービス購入などの形式で社会に各種関連サービスを提供するように誘導する。今中国は女性が敬老愛幼などの家風伝承の中における独特の役割を強調するだけでなく、経済社会発展の中で積極的な役割を果たすことも強調している。これには性別平等の視点から、キャリアウーマンたちが家庭看護での負担にさらなる関心を持ち、絶えずに新たな家庭支持政策を打ち出す必要がある。

(5) 民族の民俗文化を伝承する中で、高齢者が役割を果たすことを支持する。

朝鮮族の伝統は文芸を好み、歌やダンスを得意とし、「歌と舞の郷」と呼ばれている。高齢者の心身の健康に適した様々なレジャー活動を積極的に企画し、経費的な支持を与える。民族の民俗文化資源を発掘し、高齢者に豊かな文化的生活をおくらせ、それにより欠けた肉親の情の穴埋めをする。農村においては基本的に高齢者ばかりであり、僻地民族地域の民族の民俗文化を伝承

の中で、先天的な優勢がある。近年、習近平国家主席は特にピンポイントな農村の貧困脱出を重視しており、文化旅行農村振興と貧困脱出・財をなすことが融合し、農村の発展を促す中でも、高齢者は重要な役割を果たすであろう。

## 結論

時代の変遷は「孝」文化に衝撃をもたらした。特に、中国社会転換期に多様な価値観が併存している。如何に現代論理と伝統的な「孝」文化をさらに融合させ、「孝」文化の実践を進めるかは今中国が直面する重要な問題である。「孝」の理念を回帰させには、教育宣伝だけでは足りない。受けた教育宣伝と現実が繋がる以降、いくつかの理念は崩壊するかもしれない。文化と制度のダブル推進をすることで、より説得力を得る。家庭の世代関係間の異なる需要から出発し、最大限に政策でそれを反映する時こそ、最も人々から受け入れやすいのである。様々な原因により、社会養老はまた高齢者の一般的な選択肢になっておらず、家庭養老は依然と中国人の最も基本的な養老方式である。そのため、伝統と現代・家庭世代関係の変化・政府と家庭の責任の分配など多重関係の視点から家庭養老を支持する政策体系の完全を目指すことは一番迫りくる問題である。完全な家庭養老支持政策は、政府或いは非営利的組織が取って代わるという必要がない資源浪費を避けられる。中国の家庭養老方式にはその文化的特殊性があり、政府は今如何に家庭養老の伝統と現代の間にある緊張に対応するかがポイントである。家庭世代関係の転換に基づき、高齢者と子の需要も同時に取り込み、「共生」と調和を促すことこそが王道である。家庭養老の支持には、高齢者だけでなく、その面倒をみる子、同居する家庭構成員にも関心を持たなければならない。異なる対象に対し、適時に政策の穴を埋め、関連する政策を完備することにより、「孝」文化は現代社会でよりよく伝承と発展ができる。伝統と現代は完全に対立する両極ではなく、統一した一つの過程になりうるのである。

## 注

- 1) 郝铁川. 家文化才是中国传统文化的核心 [N-OL]. 中国新闻网, 2014-06-22 [2014-06-22].  
http://www.chinanews.com/cul/2014/06-22/6307200.shtml.
- 2) 彭希哲, 胡湛. 当代中国家庭变迁与家庭政策重构 [J]. 中国社会科学, 2015 年第 12 期, p 117.
- 3) 黄庆波, 杜鹃, 陈功. 成年子女与老年父母间代际关系的类型 [J]. 人口学刊, 2017 年 4 月第 39 期, p 105.
- 4) 陈功. 我国养老方式研究 [M]. 北京: 北京大学出版社, 2002 年 6 月, p 63-93.  
余飞跃. 家庭养老的困境与出路—兼论孝与不孝的理性 [J]. 重庆大学学报 (社会科学版), 2011 年第 17 卷第 5 期, p 125 再引用.
- 5) 安乐哲, 罗斯文. 《论语》的“孝”: 儒家角色伦理与代际传递之动力 [J]. 华中师范大学学报, 2013 年 9 月第 52 卷第 5 期 p 49.
- 6) 任兰兰. 新型孝文化在现代家庭养老中面临的挑战和对策 [c]. 2009 年, 创造与共享—首届全国老年文化高峰论坛论文选, p 160.



- 7) 余飞跃. 家庭养老的困境与出路－兼论孝与不孝的理性 [J]. 重庆大学学报, 2011 年第 5 期, p 125
- 8) 肖群忠. 《传统孝道与当代养老模式》[J]. 人口研究, 1996 (6) p 99-100.
- 9) 崔恒展. 基于唐朝给伺制度的家庭养老支持政策思考 [J]. 山东社会科学, 2013 年第 8 期, p 53.
- 10) 黄庆波, 杜鹏, 陈功. 《成年子女与老年父母间代际关系的类型》[J]. 人口学刊, 2017 年 4 月第 39 期, p 103 再引用.
- 11) 马尽举. 孝文化与代际公正问题 [J]. 道德与文明, 2003 年第 4 期, p 9.
- 12) 任兰兰. 新型孝文化在现代家庭养老中面临的挑战和对策 [c]. 2009 年创造与共享－首届全国老年文化高峰论坛论文选, p 165.
- 13) 国务院人口普查办公室, 国家统计局人口和就业统计司. 中国 2010 年人口普查资料 [M]. 北京: 中国统计出版社, 2012.
- 14) 黄庆波, 杜鹏, 陈功. 成年子女与老年父母间代际关系的类型 [J]. 人口学刊, 2017 年 4 月第 39 期, p 108.
- 15) 金香花. 当代韩国孝道的理论与实践 [J]. 湖北工程学院学报, 2015 (7) 第 35 卷第 4 期, p 33.
- 16) 救济补贴主要形式是低保 (最低生活保障), 金额按老年人困难程度每季度 300 元-800 元不等。申请程序是本人申请, 村证明, 镇评估审批。
- 17) 赵春善, 许敏, 李彩福. 〈延边农村朝, 汉两族留守老人慢性病患现状就及就诊延迟影响因素研究〉[J]. 中国农村卫生事业管理, 2014 年 11 月第 34 卷第 11 期, p 1339.
- 18) 我国 2003 年开始试行, 目前已普及。
- 19) 2015 年延边统计年鉴。

#### 参考文献

- [1] 安乐哲, 罗斯文. 《论语》的“孝”: 儒家角色伦理与代际传递之动力 [J]. 华中师范大学学报, 2013 年第 5 期 p 49-59.
- [2] 陈社英. 人口老化与社会政策: 中国人的“家”与养老研究 [J]. 人口与社会, 2017 年第 1 期, p 63-72.
- [3] 费孝通. 家庭结构变动中的老年赡养问题: 再论中国家庭结构的变动 [J]. 北京大学学报 (哲学社会科学版), 1983 (3), p 6-15.
- [4] 黄庆波, 杜鹏, 陈功. 成年子女与老年父母间代际关系的类型 [J]. 人口学刊, 2017 (4) 第 39 期, p 102-112.
- [5] 任兰兰. 新型孝文化在现代家庭养老中面临的挑战和对策 [c]. 2009 年创造与共享－首届全国老年文化高峰论坛论文选, p 160-167.
- [6] 李银河, 陈俊杰. 个人本位, 家本位与生育观念 [J]. 社会学研究, 1993 (2), p 87-96.
- [7] 李俏, 王建华. 转型中国的养老诉求与代际项目实践反思 [J]. 学习与实践, 2017 (10), p 81-90.
- [8] 金香花. 当代韩国孝道的理论与实践 [J]. 湖北工程学院学报, 2015 年第 35 卷第 4 期, p 31-36.
- [9] 金香花. 现代性认同与传统创生的意识觉醒 [J]. 佳木斯大学社会科学学报, 2013 年第 31 卷第 2 期, p 1-3.
- [10] 马尽举. 孝文化与代际公正问题 [J]. 道德与文明, 2003 年第 4 期, p 8-13.
- [11] 杨芳. 城市养老观的代际差异 [J]. 人口与社会, 2017 年第 33 卷第 1 期, p 83-90.
- [12] 彭希哲, 胡湛. 当代中国家庭变迁与家庭政策重构 [J]. 中国社会科学, 2015 年第 12 期, p 113-132.
- [13] 彭希哲, 郭德君. 孝伦理重构与老龄化的应对 [J]. 国家行政学院学报, 2016 年第 5 期, p 35-41.
- [14] 胡泽勇. 家庭养老模式在当代中国的可持续发展 [J]. 湖北工程学院学报, 2017 年第 5 期, p 25-29.
- [15] 姚远. 中国家庭养老研究述评 [J]. 人口与经济, 2001 年第 1 期, p 33-43.

(り ろんず 共同研究嘱託研究員／中国 延边大学公共管理学院准教授)

(日本語訳: 賈子申)